



【路傍の石塔にも】

これまでの人々の暮らしは、何の変哲もない路地や灯籠や石碑も語ってくれます。ついっっかりと見落としてしまうようなところにも、新しい発見があるかも知れません。



【しまむらとヤオコー】

皆さんご存知の「フアッシュンセンターしまむら」と「ヤオコー」はいずれも小川町が発祥です。しまむらは「島村呉服店」、ヤオコーは「八百幸商店」と、いずれも秩父往還沿いにあります。

【なぜ万葉集？】

鎌倉時代、読めなくなった万葉集を読み解く「万葉集註釈」が仙覚律師によりこの地で書かれ、それを顕彰して「仙覚律師碑」が建てられました。その碑を巡るコース上には、万葉モニュメントが多く立っています。

おがわまちなか散歩ツアーの誘い

小川 町の市街地は江戸時代に計画的に作られたものです。現在の国道254号が「秩父往還」と呼ばれ秩父方面と江戸を結ぶ通りとなりました。本町2丁目交差点からときかわ町方面に続く道は「八王子道」として、絹などの産物を運んでいました。このような主要な地域をつなぐ道が交差する場所に小川町があります。

江戸 時代、秩父往還で六斎市という、1と6が付く日に市がたち、物流の拠点として大いに賑わいました。たくさんのお産がここに集まり、大消費地江戸などに運ばれていたのです。物が集まるところに人も集まり、ここに街ができたのです。

槻川 の清らかな流れは良質で豊富な水を生み出し、今に続く和紙や地酒の産地を支えました。伝統的な文化や産業が息づき、盆地地形で中央に川が流れる景観から、「武蔵の小京都」と呼ばれています。

往時 の姿を変えているものもありますが、賑やかで華やかな様子が今もそこかしこに残っています。そこには先祖から受け継がれた豊かな生活があります。玉手箱を開けるように、一つ一つ散策しながら探してみませんか。きっと新しい発見とワクワクがあるでしょう。水先案内員には小川町おもてなし観光案内員が引き受けま

おもてなし観光案内員のご案内

小川町では、小川町観光協会と連携して「おがわまちなか散歩ツアー」を実施しています。おもてなし観光案内員が普段では気づかないようなスポットをご案内いたします。案内エリア(裏面マップ内)は、小川町駅からはじまる町市街地となります。歴史ある建物や町並みを散歩してみませんか。

おもてなし観光案内員のご利用について

費用 無料

事前予約

14日前まで

案内時間

9:00～16:00で随時

1時間～3時間の範囲で、案内員と相談し自由に決めることができます。

- 受付後、案内員を決定し、その後電話等で打ち合わせをいたします。
- 安全上、1チーム10名までとさせていただきます。
- それ以上の場合は2名以上の案内員で対応いたします。
- 入館料等がかかる場合はお客様負担となります。
- 屋食等のご予約はお客様ご自身でお願いします。
- 傷害保険等には加入しておりません。あらかじめご了承ください。

【お申し込み】

ホームページ掲載の申込書を記入の上、持参・ファックス・メール・郵送のいずれかにてお申し込みください。

問合せ: 小川町観光協会(小川町役場にぎわい創出課)

〒355-0392 埼玉県比企郡小川町大字大塚55

TEL 0493-72-1221 (内234、235)

FAX 0493-74-2920

http://www.kankou-ogawa.com



2022.7

おがわまちなか散歩ツアー

新たな魅力、新しい発見

おがわまちなか散歩ツアー

散策のキーワード
まちなか散歩ツアーのエリア内には数多くの魅力ポイントがあります。それらを9つのキーワードにまとめてみました。新しい発見の参考にしてください。

【小川和紙】

小川町和紙体験学習センターは昭和11年に建築された旧埼玉県製紙工業試験場で和紙の体験学習ができる拠点施設です。かつては人間国宝の故戸沢銑介がここで指導に当たっていました。まちなかには和紙問屋や小売店も軒を並べています。



【造り酒屋】

町内の3軒の酒蔵のうち、晴雲酒造と武蔵鶴酒造がまちなかにあります。関東灘の異名をとる酒どころ小川町には、地元のお酒を愛する「乾杯条例」があり、居酒屋や割烹料亭も多くあります。



【絹織物】

養蚕が盛んだったころ、小川町からも絹製品が出荷されました。富岡製糸場開業時に工女として働き参じた青木てるや、養蚕の伝習所であった旧玉成舎が、絹のまちを彷彿とさせます。



埼玉県比企郡小川町